

令和6年度3学期始業式 校長講話

2025年が始まりました。皆さんは今年の1月1日をどのように迎えどのように過ごされたでしょうか。きっと今回もそしてこれからも忘れることのできない「その時」だと思えます。

私にとっての忘れられない「その時」は平成7年1月17日阪神淡路大震災の日です。全壊した実家の電話から奇跡的につながった短い連絡を最後に、長崎からテレビを通して実家の上空から映し出される映像を見るばかりでした。

家族で被災していないのは私だけ。このことは、それ以降ずっと私の心の中に潜み、親兄弟とも地元で生活する幼馴染の同級生とも会うたびに、なんとなく一方的に自分勝手にぎこちなさを感じてきました。まさしく、2学期の終業式でお話した閉じた扉をずっと眺めていたのです。

そんな中、次の扉に気づくきっかけとなったのが、皆さんにお伝えしている「Be water my friends」。つけっぱなしにしていたテレビの音声から流れてきたブルースリーの声でした。

みなさんは、それぞれの扉を見つけていますか、閉じた扉を眺め続けていませんか、もし閉じた扉から目を離せないなら、次のことを試してください。「3cm視線をあげる」人は何かに行き詰った時、固執しているとき、視線がどんどん下に向くそうです。そして、ますます視野が狭くなり、思考の幅が狭くなっていくそうです。もし、そんな自分に気づいたら、意識して視線を3cmあげてみる。

一日に何度も何度も視線を3cmあげてみる。果たして3cm あげた視線の先に何が見えるのか、楽しみにしながら新学期に挑みましょう。